



家族の「食時間」4



緑とともに
穏やかさの中に

10年ほど前に建てた平屋の
ダイニングキッチン。斜め天井の下、
庭を眺めてテーブルを囲めば
時間はいつそうゆるやかに、会話は続く。

倉元邸（新潟市江南区）

中2階のロフトからダイニングキッチンを見下ろす。料理
好きのキッチンだけあって、壁際にコンロ、アイランドのカ
ウンターにシンクと、作業スペースが分かれていて広い

古い柿の木と レンガを眺めながら ゆったり、 週末の二人ごはん



右頁／リビングの棚にも好きな陶器を飾って 左頁・右上
／サラダには、ブナの木をスライスして成型した「ブナコ」の
ボウルを愛用 右下／「この家で暮らすようになって、料理
を作るのが前よりも楽しくなった」と奥さま 左上／キッチン
には二人で立つことも多いという 左下／伊賀焼の浅い
土鍋はパスタを作ってもそのままテーブルに 下／「お皿も
好きだけど調理道具も好き」という奥さま。「使い勝手よりも
気分で選んだ」というシンプルな道具が並んでいる

平日は忙しく、夜も遅い二人にとつて、休日のお昼は、ゆったりできる貴重な時間。パスタやサンドイッチといった軽めの料理に、時には軽くアルコールを添えて、休日気分を満喫するのが倉元家のスタイルだ。

ご主人が立ち上がって、料理をテーブルへと運び始めた。パスタの茹で上がりを見計らって土鍋を奥さまのところに持って行ったり、鍋敷きをテーブルに置いたり。言葉はないが、二人の動きがスムーズにつながっている。いつもこんな風に始まるのだろう。穏やかで静かな食時間。「この家に暮らし始めてから、食卓にいる時間が長くなったかな」とご主人。10年ほど前、古い柿の木とレンガの壁に一目惚れして、この「かきの木通り」の一角に、建てるつもりがなかった家を建てた。二人暮らしだからと、家はコンパクトな平屋に。とはいえ天井が高く、時間を重ねた庭の景色がそばにあると、気持ちは自然とゆったり大らかになる。

食べるのも好きなら、飲むのも好きな二人。「今日は飲まない、と決めて作り始めても、なぜかつまみ寄りになって」と笑う奥さまに、「料理を見て「仕方ない、今日も飲まざるを得ない」とお酒を出してくることも」とご主人。そして、二人で食を囲む時間は一日の中で一番大切、と続けた。連絡事項を伝えたり、スケジュールを確認したり。そんな中でもふっと話が深まる瞬間がある。それも食べ物の持つ力、美味しさの吸引力。時に倉元家の食卓を、庭のベンチから顔見知りの猫がのぞくというが、猫たちもまた二人の食時間に引き寄せられているに違いない。



家族の「食」時間 4





TODAY'S LUNCH MENU

1:00pm.

ひよこ豆の野菜サラダ
かぼちゃとローズマリーの素焼き
トマトとモッツァレラのパスタ
クラフトビール

4 家族の「食」時間



右頁／屋根の傾斜をそのままにした天井。「のんびりできるのは天井が高いのも大きい」とご主人。平屋だが右上上にはロフトがあり、書斎や趣味のスペースとして活用 左頁・上／庭には「何よりの財産」という柿の木とレンガの壁がある。リビングスペースの外にはウッドデッキがあり、餌付けをしている野良猫たちが行ったり来たり 下／ダイニングからは正面に庭が眺められる。柿の木は60年ほどの古い木で、7本のうち2本くらいは毎年、実をつけるという

